

—人権講演会—

## 大学のハラスメントについて

御輿久美子\*

### Academic Harassment

Kumiko OGOSHI

*Nara Medical University, 840, shijo-cho, Kashihara, Nara 634-8521, Japan**NPO Network for the Action against Academic Harassment*

(Received October 25, 2013)

The lecture on “Academic Harassment” by K. Ogoshi was held in the university hall of Osaka University of Pharmaceutical Sciences on October 25<sup>th</sup> in 2013 as part of the lecture of Medical Integrated Anthropology 3. The following is the abstract of this lecture.

Harassment which is caused by the abuse of power consists of three kinds of harassment in academia; sexual harassment, academic harassment and power harassment. These three types of harassment are defined and described their characteristics by using an educational DVD and by reading news items.

The perpetrators of academic harassment are classified as three types: unawareness and abusive perpetrators and the mob. Most frequent cases of academic harassment which occur in the mentoring are unawares committed by professors. Therefore, it is especially important to prevent the occurrence of academic harassment by upgrading communication skills of these professors. It also seems necessary to spread accurate knowledge and understanding about non-sexual harassment to all the faculty members in universities in Japan.

**Key words** — harassment, academic harassment, power harassment, communication skill

### はじめに

本年度も人権委員会主催のもと、10月25日(金)13時から14時30分まで講堂で、奈良県立医科大学の御輿久美子先生を講師としてお迎えして、「大学のハラスメント」という演題で人権講演会を開催することができました。この講演会は、同時に、医療総合人間学3「総合人間学／コミュニケーション学」の講義の一環としてもおこなわれました。御輿先生は1昨年も本学で講演していただいております。現在、奈良県立医科大学女性研究者支援センターの特任教授をなさっています。

講演は、ハラスメントとは「優位の力関係のもとでおこなわれる理不尽な行為である」という定義から始まり、全国の大学におけるセクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントの事例を取り上げながら、それぞれにおいてどのようにハラスメントがおこなわれたのか、そして大学の対応はどうであったかについて、非常に分かりやすく説明されました。それに引き続き、ハラスメントを実際に受けたときには具体的にどのように対処したらよいのか、そして加害者にならないためにはどうしたらよいのかということについて説明され、最後に、被害を受けている人が周囲にいたら、見て見

\* 奈良県立医科大学（特任教授），e-mail: kogoshi@naramed-u.ac.jp

NPO アカデミック・ハラスメントをなくしネットワーク

本講演録は、大阪薬科大学で2013年10月25日に開催された「人権講演会」の講演をもとにしています。

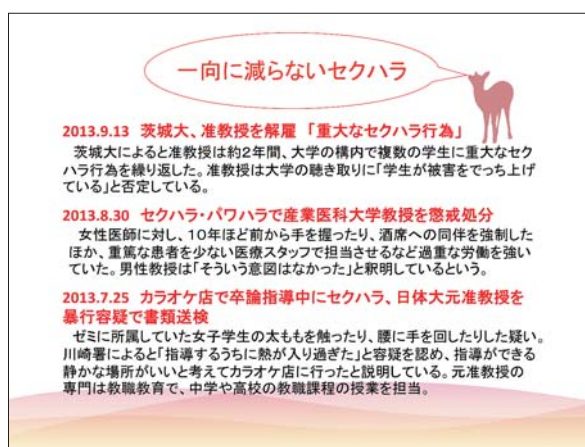
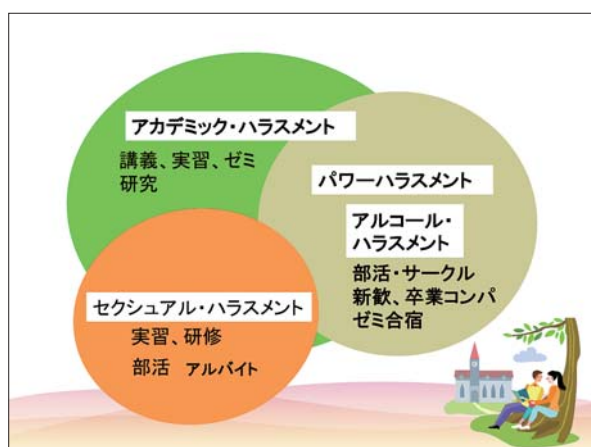
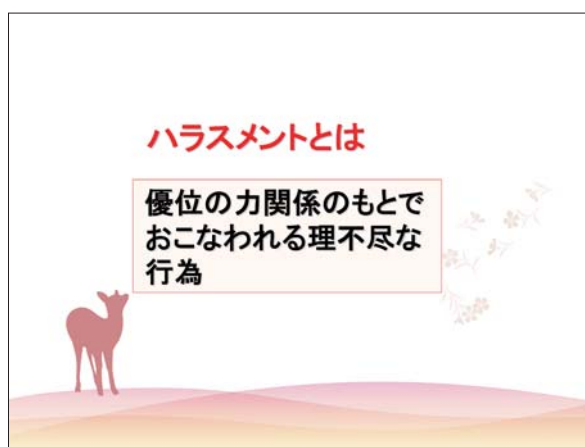
ぬふりはやめて、一緒に支援の方法を考えてみるよう呼びかけられて講演を締めくくられました。

学生諸君のなかには、初めてハラスメントについて聴いた学生もいたかと思います。そして具体的にハラスメントの事例をこれほど詳しく解説されて聴いたり、読んだりしたことのある学生諸君はそれほど多くはなかったと思います。しかも、学生の立場に立って話される先生の熱意が会場全体に伝わるなか、ハラスメントについて学生諸君は、一人ひとりが自分のこととして先生の講演を受け止めながらお聴きしていたように感じました。講演後も、何人かの学生諸君が先生のところ

にやって来て、熱心に質問している姿を目の当たりにして、講演の有意義さを深く感じ取ることができました。御輿先生に心の底から感謝申し上げます。

貴重な先生のご講演を少しでも多くの学生、教職員の皆様に知っていただきたいということもあり、以下、先生が準備されたパワーポイントの内容をそのまま掲載させていただくことにしました。掲載を快諾いただきました御輿先生に重ねて感謝申し上げます。

(人権委員会委員長 松島 哲久 記)



### 一向に減らないセクハラ



2013.7.10 女性職員へのセクハラで諭旨退職処分、愛知学院大の特任教授

2013.6.16 鹿屋体育大学 教授 セクハラで諭旨解雇

50代の男性教授が、指導していた女子学生にセクハラをし、諭旨解雇の懲戒処分を受けていたが、大学は、処分を公表していなかった。

2013.5.24 上智短大前学長 セクハラで諭旨解雇、深夜に大量メール

前学長は学長代行を務めていた昨年8月中旬～9月末、当時20歳の女子学生の携帯電話に、好意をほめかす内容のメールを約60通送りつけた。そのうち、約20通は深夜や未明の送信だった。

2013.4.8 またもセクハラ、阪南大 教授に懲戒処分

学生との飲み会の席で、女子学生の手を握ったり、肩に手を回すなどの、相手が望まない不必要な身体的接触をした。

2013.2.5 2年にわたり部下らにセクハラ、横浜市の男性係長を懲戒処分  
約2年間、部下の女性職員5人に、身体的な特徴を指摘したり交際相手の有無を尋ねたりするよう内容のメールを少なくとも十数通送っていた。



下関市立大、セクハラメール繰り返した准教授、  
停職10日 2013.5.31

准教授は2012年7月～11月、自分のゼミに所属する女子学生に8回にわたって、好意を寄せていることを示したり、食事に誘ったりするメールを送信。12月に女子学生から相談を受けた学内のハラスメント防止委員会が接触をやめるよう指導したが、准教授はその後2度メールを送った。



山口県立大教授、教え子とホテル、  
セクハラで停職6ヶ月 2012.8.30

同大によると、男性教授は2011年6～12月、特定の女子学生とホテルに行ったり、その実家を撮影して女子学生にメールで送ったりし、女子学生との関係が疎遠になると、他の学生に「(女子学生と)付き合うとろくなことがない」「単位の認定はどうにでもなる」などの発言を繰り返した。

### セクハラで解雇したら



2013.3.29 和歌山県立医科大学教授、部下の女性職員にセクハラで懲戒解雇処分

教授は着任後、約9か月間、女性職員に対し、教授の立場を利用してわいせつな行為やみだらな行為を強要していた。

2013.4.10 「解雇処分は無効」と県立医大元教授が地裁へ提訴

女性職員にわいせつな行為などを繰り返したとして懲戒解雇された和歌山県立医大医学部の元男性教授(50)が10日、同大と板倉徹・同大理事長を相手取り、解雇処分の無効と慰謝料計1650万円を求めて和歌山地裁に提訴した。

訴状によると、教授の立場を利用して女性にわいせつ行為を強要した事実が存在せず、大学側から解雇の根拠となる具体的な資料提供や説明を受けていないとしている。また、板倉理事長の記者会見の説明で、名誉を毀損されたとしている。

複数学生にセクハラ、宮崎大元准教授、退職金不支給

宮崎大学は28日、教育文化学部の40代の元男性准教授が、複数の女子学生の半裸写真を野外で撮影し卒業論文に掲載して提出させるなど、懲戒解雇に相当する不適切な行為があったと発表した。3月末に辞職しているため懲戒処分はできないが、同日の大学役員会で退職金の不支給を決めた。元准教授は「写真は学生が撮った」などと主張してハラスメント行為を否定しているという。

3月中旬、被害を受けた学生からの申し立てを受け、大学が調査していた。県庁で記者会見した原田宏副学長らによると、写真は計十数枚。被写体は卒業論文の著者を含む研究室の女子学生4～5人で、一部加工されているが、上半身裸や下着姿で顔も判別できる状態だった。

大学によると、写真は昨年夏から秋にかけ、元准教授がデジタルカメラで撮影。学生は指導への影響を恐れて断れず、「特定できないように画像を処理してほしい」と頼んだが聞き入れられなかったという。他にも▽研究室での飲酒強要▽元准教授が勧めた就職先を断った学生への暴力や嫌がらせ▽女子学生の体のサイズを言いふらす—などの被害申告もあり、男女学生約10人が被害を受けたと見られている。

2012.6.28 毎日新聞 地方版

4月から他大学に教授として勤務

都留文科大学 教授を解雇 2012.7.18  
前任地(宮崎大学)で、セクハラにより「懲戒解雇相当」

都留文科大学(山梨県)は、文学部国文学科の40歳代男性教授を7月31日付で解雇することを決定した。

3月まで勤めていた宮崎大で、学生に対するセクハラなどを理由に「懲戒解雇処分」に相当する決定を受けていたことが理由。都留文科大学は理事会で解雇を決め、7月19日、ホームページで公表した。

都留文科大学や宮崎大によると、教授は宮崎大准教授時代の昨年夏から秋にかけて、ハラスメント行為をしたとされる。複数の女子学生の卒業論文の指導に際し、学生たちの半裸に近い写真を論文に掲載させたほか、推薦した就職先を断った学生に威圧的な言動を取ったりしたという。宮崎大は、特別調査委員会を設置して調査を行い、6月28日付で「ハラスメント行為で大学の名誉を傷付けた」と認定。既に退職しているため、「懲戒解雇処分」に相当」と決定した。

一方、都留文科大学は、18日の理事会で、大学職員就業規則第12条第3項の試用期間(6ヶ月)中の条項「職務不適格その他雇用の継続に支障がある」に該当すると判断し、解雇を決定した。

2012.7.19 滋賀大学 教育学部教授(60歳代 男性)を懲戒解雇

平成23年11月、大学院教育学研究科の女子学生に対して、当該学生の意思に反して複数回にわたり身体接触を含む重大なセクシュアル・ハラスメント行為を行った。また、ハラスメント行為に至る一連の経緯を調査する過程で、大学経費を不正に請求していた事実が判明した。

2012.7.27 香川大学 不適切行為で准教授を停職6カ月

香川大は、女子学生にセクハラが疑われる不適切な行為をしたとして、30代の男性准教授を21日付で停職6カ月の懲戒処分にしたと発表した。「結婚話などで恋愛関係にあると錯覚させて性的関係を持った」という。

大学側は調査の結果、2人は一時交際していたと認定した上で、昨年8月に勉強以外の目的で深夜に自分の研究室に呼び出したり、准教授が交際をリードしたりしたことが「教員の本分を逸脱している」として懲戒処分を決めた。

2012.7.26 東京大学 ハラスメント行為で教員を懲戒処分(減給)

研究所准教授(男性・40歳代)は、平成20年から同21年にかけて、大学院女性学生に対して、過去にセクシュアル・ハラスメントを受けていたことを他の学生に話すよう促したり、わいせつ性のある画像データが記録されたハードディスクを交付するというセクシュアル・ハラスメント行為を行うとともに、同大学院学生に対して、精神的圧迫ないし苦痛を与える発言をするなどのアカデミック・ハラスメント行為を行った。





### 同性への セクハラ

### 佐賀大学 男性教授、 男子学生にキス セクハラで停職

佐賀大学は13日、文化教育学部50代の男性教授が、同学部の20代の男子学生に対しセクシャルハラスメント行為をしたとして、同日付で停職3カ月の懲戒処分にしたと発表した。

大学によると、教授は昨年10月の夜、学生と2人で食事した後にドライブに出掛け、帰りに学生が車を降りる際、頬にキスをした。教授は約2週間後、再び学生を食事に誘い、車内で頬と口にキスをした。学生が今年1月、ハラスメント相談員の教員に相談して発覚した。

学内の調査で、教授は「親愛の情が行き過ぎた。性愛の感情はなかった」「(キスは)あいさつで、自分としては違和感はない」と説明。学生とは以前から授業をきっかけに親交があったという。他の学生に対して同様の行為は確認されていない。

佛淵孝夫学長は「大学の社会に対する信用を失墜させて申し訳なく、被害者におわび申し上げる」とのコメントを出した。

2012年7月13日 佐賀新聞



### 宮城教育大准教授、研究調査旅行中 セクハラ…出勤停止1ヶ月 2012.4.18

宮城教育大学 准教授は昨年4～9月、2人で研究調査旅行に出かけた際、「1部屋しか確保できない」と同じ布団での宿泊を強要したほか、野外調査で岩場や川を歩く際、手をつないだり抱きかかえたりしたという。女子学生は昨年9月に同大に相談し、セクハラが発覚。指導教員を別の教員に替えて卒業した。



### 筑波技術大教授、出張先ホテルで 女性職員に抱きつく…停職10日 2012.3.27

筑波技術大学(茨城県つくば市)は27日、同僚の女性職員にセクハラ行為をしたとして、50歳の男性教授を停職10日の懲戒処分にしたと発表した。

同大によると、この女性が昨年9月、学内の相談窓口に「8月に出張先のホテルで教授に抱きつかれたり、体を触られたりした」と相談。教授は否定しているが、大学側が調査し、学内の教職員でつくる教育研究評議会が26日、事実関係を認定した。停職10日は懲戒解雇に次ぐ重い処分。村上芳則学長は「誠に遺憾で、再発防止に全力で取り組みたい」と話した。



### 出張先で セクハラ

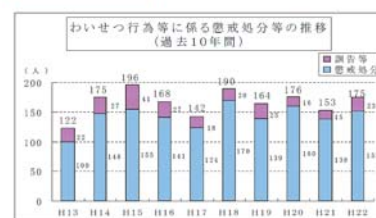
### 指導女子学生にセクハラ 愛媛大准教授を停職10ヶ月処分 2011.12.22

愛媛大学は22日、40代の男性准教授が、教え子の女子学生の体に触るなどのセクシュアル・ハラスメントなどを繰り返したとして、同日付で停職10ヶ月の懲戒処分にしたと発表した。

愛媛大の調査によると、准教授は2010年9月と2011年5月、研究会などで出張した際に、女子学生を自分と同じ部屋に泊まらせてマッサージやひざ枕などを強要した上、ベッドに連れ込んで女子学生の体に触るなどした。

女子学生がショックで研究室に来られなくなると、電子メールや電話で「授業に来ないなら大学院進学ができなくなる」などと脅したとされる。

### 文部科学省関係でも 初等中等教育の教育職員の懲戒件数



平成22年度、わいせつ行為等を行ったことにより当事者責任として懲戒処分を受けた教育職員の数は152人(前年度比14人増)であり、訓告等及び諭旨免職を含めた懲戒処分を受けた教育職員の数は175人(前年度比22人増)である。



### 教育実習生に抱きつく …セクハラで教諭を停職 2011.3.30

山口県教育委員会は30日、教育実習生だった女性(22)を海岸に連れて行き、抱きつくなどとして下関市立日新中学校の男性教諭(49)を停職3ヶ月の懲戒処分にした。

県教委によると、教諭は2010年6月15日の放課後、当時教育実習に来ていた女性を乗用車で山陽小野田市の海岸に連れて行き、手を握ったり、抱きつくなどした。教諭は「気分転換のため連れて行った。精神的苦痛を与えてしまい反省している」と話している。

女性は強制わいせつ事件として県警に被害届を提出、教諭は書類送検されたが、山口地検は起訴を見送ったという。

### わいせつ教職員、評価は多くが「まじめで熱心」…静岡

わいせつ行為やセクハラなどを行ったとして、教職員が懲戒処分を受けた過去15年間の65件について、静岡県教委が内容を分析したところ、被害者は自校の生徒や卒業生などが8割を占め、処分を受けた教職員の多くが「まじめで熱心」と評価されていたことが7日、わかった。

2002～11年度の10年間の懲戒処分133件のうち、わいせつ行為やセクハラなどの「わいせつ行為等」が最多の52件(39・1%)を占めた。

次いで、1997年度以降の15年間のわいせつ行為の背景を分析したところ、

- ・ 動機は「自分から好意を持った」が最多の23件。次が「悩み相談を受けているうちにエスカレートした」の13件。
- ・ 処分以前の評価は「まじめで熱心」(24件)が最多で、「指導力に優れている」も10件あった。

2012年3月9日 読売新聞

加害者像

### 懲戒処分: 女子生徒にメール 県立高教諭を停職 広島県教委

県教委は15日、県西部の県立高校の男性教諭(59)が、顧問を務めている文化部の女子生徒に、しつこく携帯電話をかけたリメールを送るなどしたとして、停職1カ月の懲戒処分にしたと発表した。教諭は同日付で辞職した。

県教委によると、同教諭は今年3～5月、学校外で個人的に会うことを求めるメールなどを10回送ったほか、少なくとも3回携帯電話に連絡を入れた。誕生日プレゼントとして菓子の詰め合わせを渡すなどしていた。女子生徒は4月末に不快感から欠席したという。

女子生徒が今月上旬に「メールを送られて気持ち悪い」と学校に相談して発覚した。同教諭は「相談を受けて『この子を絶対に守ってやろう』という特別な感情を持つようになった」と話しているという。

県教委は「大変遺憾。今後、服務規律の確保の徹底を図る」とコメントした。

加害者像

2013年5月16日 毎日新聞

### セクハラ相談員の元教授が性的関係強要 ...懲戒処分

宮崎大は4月26日、女子学生に性的関係を強要したとして、50歳代の男性教授(3月末に依願退職)を「解雇相当」の懲戒処分にした。退職金は支給を保留しており、支払わないという。

大学によると、元教授は2010年8月から9月にかけて複数回、女子学生に性的関係を強要したとされる。元教授は当時、学内のハラスメント相談員で、女子学生から別のセクハラについて相談を受け、「気分転換にドライブをしよう」と連れ出したという。

大学の調査に対し、元教授は事実関係を否定。女子学生は「相談内容を他人に知られたくなくて断れなかった」と話しているという。女子学生が2月、大学に被害を申し出た。

加害者像

2012年4月27日 読売新聞

### アデミック・ハラスメントとパワー・ハラスメントの違い

**アカデミック・ハラスメント:** 研究教育に関わる、優位な力関係の下で引き起こされる理不尽な行為

**パワー・ハラスメント:** 職場の上司部下や先輩後輩の関係、あるいは同僚間の中にある力関係の下で引き起こされる理不尽な行為

(暴言、威圧的言動、暴力、無視、激しい叱責、時間外・長時間の仕事の強制、飲酒・不正行為等の強要、排斥的措置、意図的低評価、差別的処遇、不快環境の形成、揶揄・嘲笑・陰口・非難、個人的秘密の暴露など)

### アカデミック・ハラスメントの用語の出現

- 1994年 東京大学女性教官懇話会、学内の助手以上の女性教官を対象に性差別・嫌がらせについてアンケート調査  
→1995年5月シンポジウム「キャンパスの性差別を考える」
- 1995年5月 京都大学職員組合「教官部会ニュース No.42」、京都大学における『アカデミック・ハラスメント』を一掃しよう

当初(1990年代後半～2005年頃の事例)は、講座内の教員間で発生している例が多かった。

特徴

- 教員(若手)が被害者、上司である教授が加害者の場合が多い。
- 講座内の他の教員・院生は、教授に加担。
- 行為の内容は、研究妨害、仕事からはずす、物品(機器、机、ロッカーなど)を無断で移動、中傷を流布、孤立化、能力否定(意図的低評価)など。
- 長期化する。

長期化

弘前大学、2教授をパワーハラで戒告処分

2011年6月24日付

2人の教授(50代男女)は男性准教授(40代)と04年4月と5月に開かれた授業科目の検討会議で担当科目を巡って意見が対立し、准教授に「大学を辞めろ」「他大学に移れ」等の発言をした。その後も、06年頃まで長期間にわたり意見の対立が続き、准教授は精神的ダメージを受けて、2人を避けるようになった。08年11月に准教授は、学長宛に書面でパワーハラを訴えた。

### 弘前大のパワーハラ: 処分無効訴訟 教授の訴え棄却

地裁弘前支部 / 青森

弘前大文学部の教授が、同じ学部の准教授へのパワーハラスメント行為で戒告処分を受けたのは不当として、弘大などを相手取って処分無効を求めた訴訟の判決が25日、青森地裁弘前支部であった。野々垣隆樹裁判長は「処分は社会通念上、相当だ」として訴えを棄却した。

2013年4月26日 毎日新聞 地方版


2004～06年ハラスメント→08年申立→11年処分→加害者側処分無効の訴え→13年地裁判決  
・発生から9年間で加害行為の認定と処分 →被害者である准教授の職場環境は改善されたか?



**Academic harassment**  
 こういう場合は加害者は指導教員一人、被害者は複数であることが多い。

**特徴**

1. 暴言、叱責、暴力
2. 指導放棄(しない)・拒否、無視
3. 長時間・深夜までの労働の強制
4. 研究成果の収奪
5. 合理的理由のない成績不可の判定
6. 過干渉



**最近10年の処分事例は、学生や大学院生が被害者の事例が多い**

**暴言**

**弘前大学、院生にアカハラ 理工学研究科教授を懲戒処分**  
 2013年7月25日

弘前大(佐藤敬学長)は25日、教員懲戒等委員会において、理工学研究科の教授(40代、男性)を、「アカデミックハラスメント」を行い、職員就業規則に違反したとして停職3カ月の懲戒処分とすることを決定した。

教授は、2011年9月～2012年7月、指導している大学院生に対して、他の複数の学生がいる前で院生の姓をとって「○○病」と呼んだり、「お前は2年(年限内)で卒業できない」等の不適切な発言を頻りに繰り返して、院生に苦痛を与えた。

教授は、院生の研究を進めるために「叱咤激励のつもりで行った」という。現在は、「丁寧さを欠く言動で、苦痛を与えたことを反省している」と述べているという。

**暴力 暴言**

**大阪大学 院生に「バカ」「アホ」 男性助教、停職3カ月**  
 2013年5月15日(水)

大阪大学は15日、指導する学生らに暴力を振るったり暴言を吐いたりしたとして、同大学院基礎工学研究科の30歳代の男性助教を停職3カ月の懲戒処分とした。

阪大によると、助教は昨年12月、大学院生の研究活動が進んでいないことを研究室でしかつた際、「バカ」「アホ」などと言い、背後から脇腹を蹴るなどした。院生からの相談で調査したところ、11年12月に同じ研究室の別の学部生をしかつた際にも、謝罪しないことに激高し平手で頭を殴ったことも判明。

平野俊夫学長は「いかなる理由であっても教育、指導の名の下に暴力は許されない。防止に取り組む」とコメントした。

10年経った今も繰り返される暴力…次のスライド→

**暴力 暴言**

**和歌山大、ゼミ生に暴力の教授に停職処分**

教授は2002年9月から03年4月までに、ゼミの男子学生4人に研究室で殴るけるの暴力をふるったほか「自分を殴れ」と命じたり、ほかの学生を殴らせるなどした。フィールドワークに出た時、握りこぶし大の石を投げ付けたこともあった。

調査委員会に対し教授は「リポート内容や授業態度が気に入らず暴力をふるったが、教育的指導だった」と説明したという。

2004年3月19日新聞記事より

10年前にも指導の名目で暴力が…

**暴力、叱責**

**埼玉大学、教育学部教授を減給処分 2012年9月27日付 学生に暴力や叱責**

埼玉大学は28日、教育学部の教授(40代、男性)がアカデミック・ハラスメントをしたとして、日給の半額分の減給処分(1カ月)にしたと発表した。

埼玉大によると、教授は平成22、23年、教育学部の1人の男子学生に指導をする際、3回にわたり頭をこぶしでたたいたり、威圧的な態度で叱責するなどして、学生に精神的苦痛を与えた。

**暴言**

**椋山女学園大 准教授「お前はアホか」の暴言**

椋山女学園大(本部・名古屋市)の人間関係学部所属していた男性准教授(47)が、学生に暴言を吐くパワーハラスメントを繰り返したとして、3月に諭旨退職処分になっていたことが8日、大学への取材で分かった。准教授は4月末付で退職。大学は「学生への影響を考慮し、公表しなかった」としている。

大学によると、准教授は講義やゼミの最中、複数の学生に「おまえはアホか」などと繰り返し暴言を吐いたとされる。

椋山女学園大では、論文の無断引用や学内でのセクハラ発言などで教授3人を停職の懲戒処分にしてきたことが10月に発覚したばかりだった。

2011年11月9日新聞記事より

**威圧的言動**

指導中に飲酒・怒鳴る・椅子をける  
東大、准教授を処分  
停職2か月 2011年4月27日付

東京大学は28日、50歳代の准教授が複数の大学院生に対し、威圧的な言動で指導を行うなどの嫌がらせ（アカデミック・ハラスメント）を繰り返していたとして、停職2か月の懲戒処分にしたと発表した。

准教授は研究所に所属し、2001年～09年にかけて、指導している学生に対して酒を飲んでどなったり、学生が座っているイスをけったりした。

田中明彦副学長は「本学教員としてあるまじき行為。全学を挙げて再発防止にあたっていく」とのコメントを出した。

**暴言**

**脅し**

岐阜大学大学院留学生  
のアカハラ提訴、判決  
110万円の賠償を命じる

岐阜地裁、内田計一裁判長は元留学生の中国人女性（30）の訴えを一部認め、同大と男性講師に計110万円を支払うよう命じた。訴えによると、女性は04年～07年、同大大学院地域科学科の修士課程に在籍していたが、担当教官だった当時40代の男性講師から執拗に休学するよう求められ、これを拒否すると修士論文が不合格となり、卒業が1年遅れた。女性は大学側に担当教官の変更を求めたが、大学側は「必要ない」として適切な措置を取らなかったため、07年に提訴に踏み切った。

判決は、講師は学力不足を理由に女性に執拗に休学を迫り、「**聞かなければ退学も自由に出来るとは限らない**」と女性を不安に陥れた上、「**社会のクズ**」などと**暴言を吐いた**ことは、「社会的通念に欠ける不法行為」と認めた。一方で、修士論文が不合格になったこととの因果関係は認められなかった。

2009年12月16日 新聞記事より

**暴言、脅し**

「卒業保証しない」との教授の発言  
停職3か月の懲戒処分

2012年3月19日

兵庫県立大学は、2010年春から、指導を受け持つ男子大学院生に対し、研究テーマの内容を説明しないといった行動を繰り返した教授を停職処分にした。院生は体調を崩し、同年10月に研究室の変更を申し出たが、教授は面談で「もう二度と目の前に出てくれるな」「卒業の保証はしない」と発言するなど、威圧的な言動を取ったという。院生は昨年3月に中退した。

院生は、教授とのやりとりをICレコーダーに録音しており、別の教員に相談した。教授は以前にも、学生の就職活動を巡ってトラブルを起こした経緯があり、昨年10月から指導教官を外されている。

暴言については「言ったかもしれない」としているが、指導自体については「見解の相違だ」と話しているという。

**指導放棄**

院生指導せず一准教授を減給  
長岡技術科学大／新潟

長岡技術科学大（長岡市）は10日、指導する元大学院の女子学生にアカデミックハラスメント行為をしたとして、同大の40代の男性准教授を減給の懲戒処分にしたと発表した。

同大によると、男性准教授は元大学院生が博士課程に在籍していた10年ごろから、**論文添削などの教育研究指導を行わないようになった**。このため、元大学院生は退学後に1年間、研究生として研究を続けたが、学位論文を提出できず、**博士の学位を取得できなかった**。元大学院生が昨年10月、同大に相談して発覚した。男性准教授は「学生の自主性を求めた」と話しているという。

新原皓一学長は「教育機関の職員として意識改革を徹底し、教育研究指導体制の充実を図りたい」とコメントを出した。

2013年4月11日毎日新聞

**行動監視・報告強要**

1日の行動をメールで報告強要  
早大教授解任

早稲田大学は16日、女子学生2人にパワハラやセクハラなどの行為をしたとして、理工系の学部や研究科でつくる理工学術院の50代の男性教授を同日付で解任の懲戒処分とした。

早大によると、男性教授は昨年夏から今夏にかけ、授業と関係なく学生に1日の行動内容をメールで報告するように強要するなどしていた。昨年7月と8月に、学生が相次いで大学側へ相談し発覚した。

早大広報課は「大学として深くお詫び申し上げます。再発防止に努める」などとコメントを発表した。

2012年11月16日

**個の侵害、叱責、見せしめ  
セクハラ暴言**

医学部准教授、「駄目リ  
ポート」と書き学内掲示

大分大は17日、学生のレポートを中傷する文書を学内に掲示するなど威圧的な嫌がらせ（アカデミック・ハラスメント）をしたとして、医学部の40歳代の男性准教授を戒告の懲戒処分にしたと発表した。

発表によると、准教授は昨年4～9月、**1人の学生のレポートと、「このような内容では駄目だ」などと書いた文書を2度にわたって学内の掲示板に貼り出した。また、実習着姿の別の学生を「コスプレか」とからかうなどした。**

准教授の授業を受けていた学生数十人の大半が出席を拒む構えを見せ、昨年9月、大学側に苦情を申し立てた。大学の調査に、准教授は「嫌がらせをしたつもりはない。レポートを掲示したのは励ますためだった」と話しているという。

2011年11月17日 新聞記事より

**研究成果の収奪**

高知大学、教授を処分：指導教授が院生の研究成果を無断で用いて論文作成

2011年5月21日 読売新聞記事より

高知大教授が論文盗用

大学側が共同研究の院生提訴

高知大学大学院工学研究科の教授が、院生の研究成果を無断で用いて論文を作成し、それを学術誌に掲載したことが、院生らによって発覚した。大学側は教授を処分したが、院生らは論文の著作権をめぐって大学と訴訟を提起した。教授は、院生の研究成果を無断で用いて論文を作成したことを認め、学術誌から論文を撤回し、謝罪した。大学側は教授を処分したが、院生らは論文の著作権をめぐって大学と訴訟を提起した。

**罰則、罰金**

愛媛大学、准教授を処分  
出勤停止14日間

2012年 10月12日

愛媛大学は12日、大学院医学系研究科の40代の男性准教授がアカデミックハラスメントをしたとして、13～26日まで14日間の出勤停止処分にしたと発表した。

大学によると、准教授は平成21年6～7月、自らの研究室に所属する男子学生に対し、遅刻を重ねたことを理由として早朝出勤を命じたり、実験を失敗した際に器材・試薬費として約25万円を支払わせたりするなど、学生の心身の負担に十分に配慮することを怠ったという。

パワーハラスメント・・・職場での性的でないハラスメント

厚生労働省 みんなでなくそう！職場のパワーハラスメント あかるとい職場応援団

あなたの職場は、大丈夫？

職場のパワーハラスメントとは？

これってパワーハラ？

みんなでなくそう！職場のパワーハラスメント

<http://www.no-pawahara.mhlw.go.jp/>

**① 日本の職場におけるパワー・ハラスメント**

過去3年間にパワーハラスメントを受けたことがあると回答した者は回答者全体の25.3%、パワーハラスメントを見たり、相談を受けたことがあると回答した者は回答者全体の28.2%、パワーハラスメントをしたと感じたり、したと指摘されたことがあると回答した者は7.3%であった。

	経験あり	経験なし
パワーハラを受けたことがある	25.3	74.7
勤務先で、パワーハラを見たり、相談を受けたことがある	28.2	71.8
パワーハラをしたと感じたり、したと指摘されたことがある	7.3	92.7

平成24年7月調査

出典：平成24年度 厚生労働省委託事業「職場のパワーハラスメントに関する実態調査報告書」

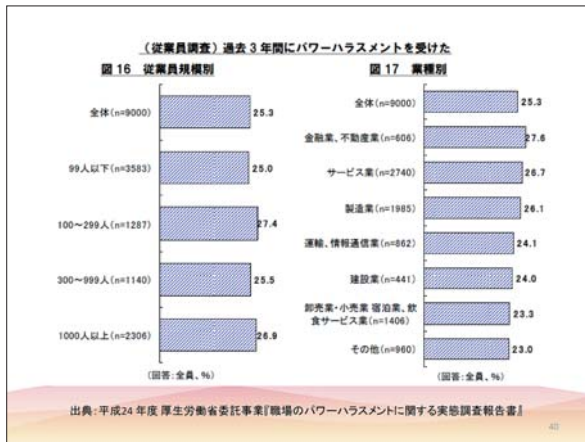
過去3年間に受けたパワーハラスメントの内容  
「精神的な攻撃」が多い

種類	割合 (%)
精神的な攻撃	55.6
過大な要求	28.7
人間関係からの切り離し	24.7
儀の侵害	19.7
過小な要求	18.3
身体的な攻撃	4.3
その他	8.6

**パワーハラの内容**

類型	内容
精神的な攻撃	・皆の前で、落ち度を大声で叱責された。物を投げつけられた。 ・人格を否定されるようなことを言われた。お前が辞めれば、改善効果は500万出ると会議上で言われた。 ・同僚の前で無能扱いする言葉を受けた。
過大な要求	・終業時間になって、過大な仕事を毎回押し付ける。 ・一人では無理だとわかっている仕事を一人でやらせる。 ・休日出勤しても終わらない業務の強要がある。
人間関係からの切り離し	・挨拶をしても無視され、誰も会話をしてくれなくなった。 ・業務報告を無視された。部署の食事会に誘われない。 ・同僚たちは、「私の手伝いをするな」と上司から言われている。
儀の侵害	・プライベートな事を聞いてきたり、相手は既婚者であるにも関わらず自身の私にしてくく交際を迫った。 ・交際相手の有無について聞かれ、過度に結婚を推奨された。 ・個人の宗教を、皆の前で言われ、否定、悪口を言われた。
過小な要求	・従業員全員に聞こえるように程度の低い仕事を名指しで命じられた。 ・営業なのに買い物、倉庫整理などを必要以上に強要される。 ・本来の仕事を取り上げられ、草むしりを命じられた。
身体的な攻撃	・足でけられた。 ・胸ぐらをつかむ、髪を引っ張る、顔をたたき上司がいる。 ・手に持っている物を投げつける。





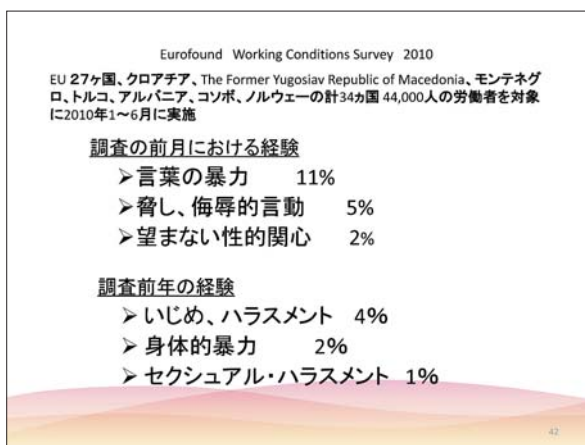
#### 健康部門における心理的暴力の拡がり（オーストラリア、ブラジル、ブルガリア、レバノン、ポルトガル、タイ、南アフリカ）

ILO/ICN/WHO/PSIの調査によると、「心理的暴力は世界中に拡がっていて、言葉による虐待（Verbal abuse）が最も多い。言葉による虐待は、ブラジルでは調査の前年に回答者の39.5%が経験している。同じく、ブルガリアでは32.2%、南アフリカでは52%（公共部門では60.1%）、タイでは47.7%、ポルトガルでは保健センターで51%、病院で27.4%、レバノンでは40.9%であり、オーストラリアでは67%に達する。

二番目に問題の領域は、いじめ／脅し（Bullying）とモビングMobbingである。これらは、ブルガリアでは30.9%、南アフリカでは20.6%、タイでは10.7%、ポルトガルの保健センターでは23%、同国の医療機関では16.5%、レバノンでは22.1%、オーストラリアでは10.5%、ブラジルでは15.2%となっている」。

V. Di Martino: Synthesis report, ILO/ICN/WHO/PSI, 2002

出典: WHO「職場における心理的ハラスメント」2003年



#### 【レポート】米国人の3人に1人が職場でいじめを体験

学校でのいじめが再び大きな話題となっている日本、だがいじめは日本だけの現象ではないし、学校だけの現象でもない。米国でも、3人に1人が職場でのいじめを経験したことがあるという。

就職や転職情報サイトの米CareerBuilderが8月末、職場でのいじめをテーマにした調査結果を発表した。それによると、35%の人が「オフィスでなんらかのいじめを経験したことがある」と回答。前年の調査では27%だったというから、職場でのいじめを感じている人が8ポイントも増加したことになる。いじめの結果、「健康が関係する問題に悩まされた」という人は16%、17%の人が「状況から逃げ出すために退職した」というから、かなり深刻に悩んだとみえる。

出典: マイナビニュース2012年9月12日(水)13時10分配信

精神病理学的障害	心身障害	行動障害
不安反応	高血圧症	自他への攻撃
無気力	喘息発作	摂食障害
回避的反応	動悸	アルコール、薬物の過剰摂取
集中障害	冠動脈性心疾患	過度の喫煙
抑うつ気分	皮膚炎	性機能障害
恐怖反応	脱毛	社会的孤立
フラッシュバック <sup>1)</sup>	頭痛	
覚醒亢進	関節痛、筋肉痛	
不安	平衡機能障害	
不眠	片頭痛	
侵入的思考	胃痛	
いらだち	胃潰瘍	
自発性欠如	頻尿	
メランコリー		
気分変動		
繰り返す悪夢		

1) 訳注: まざまざと思い出されてくる過去の出来事。

出典: WHO「職場における心理的ハラスメント」2003年

#### パワハラで中学教師自殺、公務災害認定 千葉

千葉市の市立中学の教師（当時50）が06年9月に市内の高架橋から飛び降り自殺したのは校長のパワーハラスメントが原因だとして、遺族が地方公務員災害補償基金に公務災害の認定を求め、このほど同基金がパワハラによる公務災害と認めた。

教師は、06年8月下旬に夏休み中の生徒の水難事故の対応に奔走。専念しようと同30日、教頭昇進試験の辞退を校長に告げると、「お前は昔から仕事がいい加減だった」などと約1時間、怒鳴られた。これまでも継続的にパワハラを受けていたこともあり、これを機に教師は深刻なうつ病に陥った。自殺は7日後だった。

市教委は07年2月、「校長職の適性がない」と、この校長を一般教諭に降格させる分限処分。校長は07年度末に退職している。

2008年9月29日 朝日新聞

### 大学におけるパワー・ハラスメントの例(1)

#### 京大准教授、被雇用者に対して 能力を否定する暴言

京大再生医科学研究所の准教授が設立した医薬品製造会社で勤務中に、暴言を浴びせられるなどのパワハラ行為を受けたとして、府内の60代の男性が准教授などを相手取り、慰謝料計660万円の支払いを求めた訴訟の判決が15日、京都地裁であった。

判決によると、男性は平成17年3月に同社に入社し、21年7月に定年退職するまで勤務。勤務中に、同社のオーナーを務める准教授からたびたび「給料もろってまともに仕事せんやつが会社にとって失礼やないか」「会社を辞めたらええやんけ」と言われるなどした。

2010年9月16日

46

### 大学におけるパワー・ハラスメントの例(2)

#### 「辞めてしまえ」との暴言 三重大准教授 大学が出動停止6か月の懲戒処分

国際交流センターの男性准教授(53)が、複数の職員に「おまえなんか早く辞めてしまえ」との暴言を浴びせたり、誹謗中傷メールを送っていた。

「事務が何をえらそうなことを言っているんだ」と言ったり、文書を手直したことにに対して「詫び状を出せ」と書いたメールをセンター職員全員に送りつけたりもした。

職員らは「夜も寝られない」「出勤するのが怖い」などと訴えた。

以前にも女性非常勤講師に中傷メールを何度も送り付け、厳重注意を受けていた。

2008年3月7日

47

### 大学におけるパワー・ハラスメントの例(3)

#### 部下4人にパワハラ、2人退職 大阪市立大職員 停職2か月の停職処分

理学部付属植物園の男性主任(40)は、樹木を維持管理していた2005年以降、部下4人に対し、**1時間以上立たせてし**かったり、理由を告げないまま高圧的な態度で怒鳴りつけた。30代女性2人が休職後に退職、30代男性が休職、40代男性が一時休職を余儀なくされた。

部下の1人の通報で前年7月に発覚。

主任は「パワハラの意識はなかったが、言い方はきつかった」と話しているという。大学は、「退職者も出ており重大な事案」と判断した。

2010年3月10日 朝日新聞

48

### 大学におけるパワー・ハラスメントの例(4)

#### 「パワハラ」もうガマンできない……選手たちが集団直訴 ……選手130人中109人が監督交代を求める 法大野球部監督ついに辞任

2013年4月3日、主将ら5人の名前で増田総長あてに監督交代を求める嘆願書が大学に持ち込まれたが、野球部長は受け取りを拒否。翌日、郵送され、選手たちは部長に強ちに要請をおこなった結果、ようやく監督の辞任に至った。

嘆願書によれば、監督は指導のとき「お前は社会で通用しない人間だ」と罵倒したり、マネジャーを私用に使ったりした。部員130名に対し、監督交代を求める者が109人という圧倒的な数字となった。

金光監督は昨年まで10年間、監督を務めたが、指導者としてあるまじき言動が長年続いていた、という。辞任問題は2年以上前から出ていたが、大学として対応がなされていなかった。関係者によると、今年1月、野球部総会が行われ、金光監督は「OB会から除名」の処分が決まった。しかし、監督の任命権を持つ総長は、このOB会の意向を無視していた。

2013年4月5日新聞記事より

### 大学におけるパワー・ハラスメントの例(5)

#### 鹿屋体育大学 パワハラ 部活で

また08年以降、男性教員がパワハラで2度の訓告を受けていたことも判明。

開示資料によると、教員は顧問をしていた部活の学生らに暴言を繰り返した。

大学は職務内の懲戒処分は全て公表するとの指針を定めている。

※鹿屋体育大は国立大唯一の体育大学。  
オリンピックのメダリストも輩出している。

2013.6.13 新聞報道

### 大学におけるパワー・ハラスメントの例(6)

#### 神戸大、前医学部長をけん責処分 部下の准教授に退職を迫る

神戸大は26日、地位を利用して嫌がらせをするアカデミック・ハラスメントをしたとして、前医学部長・医学研究科長の60代の男性教授を、24日付でけん責処分にしたと発表した。

神戸大によると、この教授は2008年から09年にかけて、医学研究科の50代男性准教授と若手研究者の指導方法について数回にわたって話し合ったが、その際、准教授に「教育をさせないようにする」「医学研究科にいられないようにする」などと怒鳴ったという。

09年8月、男性准教授が大学事務局に訴え、大学側が教員や外部の弁護士による調査委員会を設置。ハラスメント防止規定に照らし、激しい口調で退職を迫るような発言をアカハラと認定し、今年3月、福田秀樹学長に報告した。教授は「研究科長として一生懸命に指導したつもりだった」と弁明したという。会見した正司健一副学長は「恥ずかしいこと。地道に再発防止に努めたい」と話した。

2011年5月26日



### 大学におけるパワー・ハラスメントの例(7)

#### パワハラで「うつ病」に 労災認定 大学の元総務課長

横浜美術短大(現・横浜美術大学)の元総務課長が、上司のパワー・ハラスメントでうつ病になったとして、横浜北労働基準監督署に労災認定された。

元総務課長は、08年6月に短大総務課長となり、4年制大学移行に向け文部科学省との折衝を任された。認可がほぼ確定となった09年9月から突然、思い当たる節もないのに短大の非常勤の女性参事(当時、既に退職)に厳しい言葉を言われ始めた。「何か勘違いしているんじゃないの」「堪忍袋(の緒)はとくに切れている。覚悟しておきなさい」などと繰り返されたという。さらに、10年に入ってから学園の男性事務局長に「嫌だと言っても裁判になっても辞めてもらう」と2回、退職を強要された。10年3月、参事に「辞めるか降格か」と選択を迫られ、課長代理に降格させられたと訴えている。

その直後に睡眠障害や倦怠感などの症状が表れ、同月、うつ病と診断された。約3ヶ月間休職し、昨年9月に労災と認定された。

2012年7月5日 毎日新聞

### ハラスメントを生み出す背景

- ・ 非常識な良識の府とはいえない環境
- ・ それをあたりまえとして、あるいは独自の文化として容認する大学
- ・ その負の文化を共有することで結束を固める閉鎖社会
- ・ 何をしても許されるという思い上がり



#### 上越教育大、喫煙を学生に注意され 教員が逆切れ、暴言 停職3カ月の懲戒処分

2013年6月7日

上越教育大(国立、新潟県上越市)の40代の男性教員が、全面禁煙の大学構内で、たばこを吸っているのを学生から注意されたことに逆上し、集まった学生らの胸ぐらをつかんだり暴言を吐いたりしていたことが分かった。大学は7日、6日付で停職3カ月の懲戒処分にしたと発表した。

大学によると、男性教員は3月中旬、校舎のベランダで喫煙しているのを注意した男子学生に腹を立てて怒鳴りつけ、騒ぎを聞いて集まった学生や他の教員ともめ合いになった。学生の人格を傷つける言動もあった。

足にあざができた学生もあり、男性教員は「深く反省している」と話しているという。大学は春休みに入り講義中ではなかった。

立屋敷かおる副学長は記者会見で「誠に遺憾で深くおわびします」と謝罪した。



#### 土下座させ学生踏む 医学部教授停職

横浜市立大は29日、医学部の50代の男性教授が男子学生を土下座させ、頭を踏み付けるなど「指導の域を超えた暴力行為があった」として、同日付で停職3カ月の懲戒処分にした。また監督責任を問ひ、60代の医学部長を戒告とした。

大学などによると、教授は女子学生からストーカー被害の悩みを相談され、2月下旬、学期末試験会場で、面識のない3年の男子学生に証拠もないのに、ストーカー行為をしているなどと、名誉を傷つける発言をした。さらに教授室を訪れた学生に「土下座して謝れ」と強要。土下座した学生の頭を踏み付け、翌日までに頭を丸め、反省文を出すよう要求した。

学生は精神的苦痛を受けたとして3月、大学のハラスメント防止委員会に被害を申し出て、4月には教授に慰謝料など330万円の支払いを求めて横浜地裁に提訴した。

2011年7月29日

#### 福井工大教授が酒席強要アカハラ 減給の懲戒処分

福井工大機械工学科の男性教授(65)が、男子大学院生に酒席を強要するアカデミックハラスメントを行ったとして、同大が減給10分の1(3ヶ月)の懲戒処分をしていたことが8日分かった。

男子大学院生と保護者から3月に相談を受け、大学側が調査していた。処分は6月21日付。同大は当面の間、同学科の教員と学生の酒席を禁じている。

同大によると、教授は昨年4月ごろから今年初めにかけて4回、この大学院生を含む複数の男子大学院生を酒席に誘った。相談した大学院生は2回参加したが「酒席を強要された」と感じたという。

教授は「少し誘いすぎたと反省している」と話しているという。同大は「事実関係をきちんと調査して処分した。今後もアカデミックハラスメントには厳しく対応し、再発防止に努めたい」としている。

2011年9月8日 福井新聞



注意

**アルコール・ハラスメント**  
大学における学生間のパワー・ハラスメント  
として対策が必要



### 大学生の「急性アルコール中毒死」の背景にはこんな実態が！

死者が出た飲み会の状況から、次のような実態が明らかになっている。

- ・ 学生の日常の中に、「吐くこと」「酔いつぶれること」を前提とする危険な飲み会が存在している
- ・ 場の盛り上がりや、上下関係による暗黙の強要(アルハラ)がある。とくに、卒業・新歓コンパ、合宿、寮ではその傾向が強くなる
- ・ 未成年の飲酒が公然となっていて、1年生はアルハラのターゲットになっている
- ・ 酔いつぶれた者を放置する状況がよく見受けられる。救急車を呼ぶのを躊躇し、手遅れになってしまう
- ・ 学生の自治ということで大学は管理体制をとりにくく、教育的対応も十分でない

[http://www.ask.or.jp/ikkialhara\\_campaign.htm](http://www.ask.or.jp/ikkialhara_campaign.htm)

### 筑波大18歳、飲酒し死亡 水泳部仲間と「打ち上げ」で

7日午後10時半ごろ、茨城県つくば市の筑波大水泳部の男子部員(18)の自宅アパートで、男子部員が酒を飲んで様子が急変した、と一緒にいた部員から119番通報があった。男子部員は約2時間後に病院で死亡した。つくば中央署は、急性アルコール中毒の可能性もあるとみて、死因や飲酒の状況を調べている。

署によると、男子部員は7日にあった水泳の茨城県選手権大会に出場した後、打ち上げとして午後7時半ごろから、自宅アパートで1～4年生の男女の部員仲間十数人と酒を飲み始めた。ビールと梅酒を複数杯飲んでいるうちに顔が青ざめ、嘔吐したという。

2013年7月8日 朝日新聞

### 小樽商科大 学生自治会 新歓コンパで「禁酒」をルール化

昨年5月、アメリカンフットボール部の新入学生が急性アルコール中毒で死亡した事故を受け、小樽商科大の学生自治会は、サークルの新入生歓迎コンパなどで上級生を含めて飲酒を禁じる新ルールを決めた。違反したサークルには「罰則」も設ける。

同自治会によると、対象は加盟の体育系・文化系サークルなど約60団体。新歓会場への酒の持ち込みや会場となる店舗での酒類注文を禁止する。違反団体には来年度までサークルへの勧誘活動を禁じ、自治会からのサークル配分金を無期限停止。体育館など施設の使用も禁止する。

新入生の商学部1年Sさんは「飲酒事故では先輩も後輩も自己管理がなっていないと感じた。ルールがあつての自由。(飲酒の強要には)周りから固いと思われてもきつぱりと断りたい」と話した。

同大では4日、入学式があり、山本真樹夫学長はあいさつで昨年の飲酒事故にふれ、「二度と不幸な事故を繰り返すことのないよう、紳士、淑女として行動してほしい」と呼びかけた。

同大は事故後、学内での飲酒を禁じている。

2013年4月4日 毎日新聞より

### 酒席等での教員の問題行動



セクハラ

「2、3人の学生と性的関係を持った」  
神奈川県立大教員がセクハラ発言

神奈川県は28日、**未成年の学生と飲酒**し、セクシュアル・ハラスメントに当たる**わいせつ発言**をしたとして、県立保健福祉大学の30代の男性教員を停職3カ月の懲戒処分とした。

同大によると、教員は昨年5月から6月ごろ、**研究室**や飲食店で女子学生4人と**酒を飲み**、「学内に元カノ(彼女)、今カノの学生がいる」「2、3人の学生と性的関係を持った」といった趣旨の話をした。学生が昨年10月、同大の窓口に相談して発覚。「元カノ」は実際にいたが、性的関係は「盛り上げるために冗談をいった」と否定しているという。

2013年 3月28日産経新聞



セクハラ

宇都宮大教授を処分／栃木  
学外の飲み会で

宇都宮大教育学部の50代の男性教授が、女性研究生の手を握るなどのセクシュアル・ハラスメントをしていたとして、同大学は1日、同日付で教授を戒告処分にしたと発表した。

今年8月、**学外の飲み会で研究生の肩を触り、手を握った**という。研究生から相談があり発覚した。教授は行為を認めているという。

2011年11月2日 毎日新聞地方版

## ハラスメントを防ぐには

1. 被害がひどくならないうちに・・・
2. 加害者にならないために・・・
3. 被害を受けている人が周囲にいたら・・・

### 1. 被害がひどくならないうちに・・・止める！

- ・ ハラスメントは、はじめは「嫌だな」とは思っても、とりたてて問題にするほどのことではないように思える場合が多いです。
- ・ しかし、ハラスメントは、黙ってがまんしているとだんだんひどくなっていきます。
- ・ そこで、ハラスメントとまではいえなくても、「嫌だな」と思うことがあったときに、それを相手に伝え、ハラスメントに発展しないようにする必要があります。
- ・ ただ、「嫌なのでやめてほしい」ということを、どのように伝えるかが難しいです。

→ 皆さん、一緒に考えてみましょう。

### どのように嫌だとの気持ちを伝えるのか？

- ・ 攻撃的な言葉を使わない
  - ・ 相手に不快感を与える言葉・言い方をしない
- 自分が言われたら不快な、傷つく言葉は相手に対しても使わないこと

- ・ 相手に合せようとしな
- ・ 自分の気持ちを素直に伝える

→ 自分が言われたら受け入れられる言い方を、自信をもって言おう！

### 2. 加害者にならないために・・・部下や共に働く人に対して

- ・ 注意をする場合に、否定的言葉を使わないこと
- 「あ、それはダメだ！」  
「それは間違っている！」  
「そんなことも知らないのか！」
- ・ 大勢の人のいる前で厳しい言葉で注意しないこと
- 人の前で恥をかかせない・あからさまに非難しない  
学生や同僚の前で叱らない  
1対1でも相手を尊重する言い方、やり方で

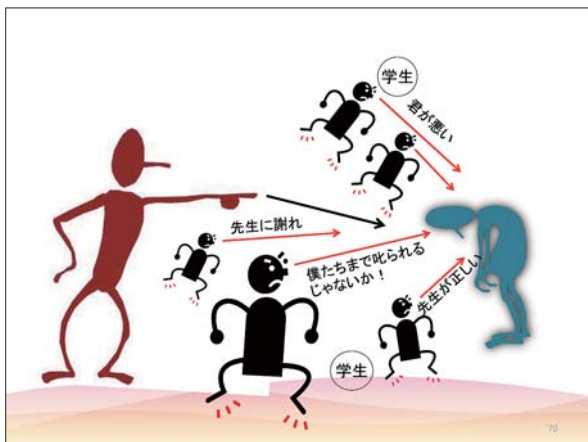
### あなたが教員なら・・・学生に対して

- ・ 学生や院生に対して、腹が立つことがあっても（それが正当な怒りであっても）激しい言葉は使ってはいけません。  
自分の感情を表出するのではなく、相手が受け止めて改めることのできる指導の仕方をとること
- ・ 反対に、ご機嫌をとうとうとしてもいけません。

↓  
指導者としての自分を見失わないこと

### 3. 被害を受けている人の周辺でおこる状況は・・・





### 3. 被害を受けている人が周囲にいたら・・・

- 見て見ぬふりはやめましょう
- 加害者に同調してはいけません
- 被害者に自分の考えを押し付けてはいけません

→ 皆さん、一緒に支援の方法を考えてみましょう。



### 加害行為の種類

1. 意図的に嫌がらせ行為を行う「**積極的加害行為者**」
2. 嫌がらせを見て見ぬふりをしたり、加害者の指示に従って嫌がらせに加担してしまう周囲の人たち、すなわち「**消極的加害者**」
3. 意図せずに、あるいは悪意なく行った言動が相手の気持ちを著しく傷つけてしまった「**無自覚的加害行為者**」

教員から学生に対しておこなわれるアカハラは、**無自覚的加害行為**であることが多い。

- 加害教員の側にはハラスメントにあたることをしているとの自覚がない。
- 教育上の指導であるとか、叱責は社会的に容認されているとの思い込みがある。
- 最近の学生は出来が悪い、責任感がないとの思い込みがある。
- 学生や部下の失敗を許せず、怒りが抑えられない。

### 注意

学生は、被害者にもなるが、

2. 嫌がらせを見て見ぬふりをしたり、加害者の指示に従って嫌がらせに加担してしまう「**消極的加害者**」や
3. 意図せずに、相手を著しく傷つけてしまう「**無自覚的加害者**」にもなりうる。

### 無自覚的加害者にならないために

- **相手を尊重するコミュニケーションをとること**
- **相手を尊重する**とは、地位の上下、年上・年下、教える・教えられるに関わらず、相手の気持ち・心情を推し量り、否定的言動をしないこと
- 自分の感情を表出するのではなく、相手にどう受け取られるか、相手を傷付けていないかを常に考え発言・行動すること





ハラスメントを発生させないための  
2R コミュニケーション

- ◆ **respectful dialogue**  
相互を尊重した対話
- ◆ **reasonable manner**  
道理をわきまえた行動

